

ダイヤモンドタクシー

影山薫

登場人物

乗務員 A

乗務員 B

客

どうやら宇宙船らしい、人間ホログラムの運転手が2人作業している、そこへ、犬を抱え、客が一人乗り込んで来た。七部丈のズボンに、髪は横に分けているが、その下に薄っすらと頭皮が覗える。

乗務員 A まあまあ、そう緊張せず普通にどうぞ。

客 (はっとして頭に手をあて) 普通に・・・。

乗務員 A 座席の方へ。

客 あ、どうも、まだ二度目なもので。あの、犬、いいですか？

乗務員 A 構いませんよ、保証はしませんが。

客 どうしよう。

乗務員 B 放っておいても殺すようなものですよ。

客 そうですね、一緒に乗ります。

乗務員 A どちらへ？

客 ファンタジイワールド。

乗務員 B 疲れてますねー。

客 わかりますか？

乗務員 B わかりませんが。

客 ホログラムだもんね。

乗務員 A 機内食どうされます？

客 あ、犬に餌やるの忘れてて、なんでもいいので。

乗務員 A じゃ、ここに座らせてください、勝手に出

ますから。おお、おお、いい食べっぷりですねえ。

客 最近じゃあ、通風の親父の代わりにいい肉をたらふく食う始末。おかげさまで肉付きもよく。

乗務員 B 前地球に行った時、こんな感じによく肥えた犬轆きそうになってね、その時の犬の、もの凄く驚いた顔が、滑稽で滑稽で、面白かったな。

乗務員 A やめなさい、滑稽が過ぎると残酷です。

客 (急に震えだし) うう、アキレス腱折れそう。

乗務員 A どうしました。

客 寒い、痛い、寒い、痛い。(七分丈でむき出しになった足を度々抑える)

乗務員 A しまった！ またか！ 何度温度計を見て

おけと言ったらしいのだ？

乗務員 B あ、というっかり。

乗務員 A (温度を正常にセットし) お客さん、大丈夫ですか？

客 驚きましたが、大丈夫ですよ。

乗務員 A 本当にすいません。まったく、また一人凍死させる気か？

乗務員 B そんなつもりはないのですが。

乗務員 A 事実にもりはない、笑うな！

乗務員 B 苦笑いです、許して。だって、人間障害保護装置、多過ぎて。

客 あのー、すいません。ビデオの返却をしたいので、ツタヤに寄って貰えますか。

乗務員 A あーそうですか、すいませんが、その様な立ち寄りには、このタクシー、お客様の超能力で止めて頂く事になってます。

客 超能力！ 私の様な凡人にそのような力は。

乗務員 A ご心配には及びませんよ、出来るという思い一つでよろしいのです。

乗務員 B 近づいて来ました、まもなくー、どうぞー。

乗務員 A さあ、お願いします。

客 んむむむー。とまれー。

乗務員 A 出来ると思うは超能力！

乗務員 B 到着。なかなかの超能力でございましたよ。

客 はー良かった。あるのですな、私の様な者にも。

乗務員 A 見たことの無いパッケージですね、何という映画です？ 私はホログラムになってから、A V すら見ることもなくなりました。

客 「やくざVSピンクハウス」もう、ピンクハウスの一見かわいい巧妙な手口は見事。

乗務員 B ピンクハウスに2時間ヤクザと戦えるだけの同等な力が？ ブイエスイーコールイーコール？

客 ある意味。

乗務員 B ・・馬鹿にしているのかな？

乗務員 A まあまあ、見所を一つ。

客 ある、やくざ青年実業家がですね、「この、親父の38口径で、あいつをバンそいつをバンこいつをバン」といった・・・

乗務員 B あ、犬が。

客 おお、メイプルちゃん、死んだふりをしてくれなくてもいいんだよ。さあ起きなさい。あれ？

乗務員 B 名演技ですな、なかなかの律義者とみた。

乗務員 A あれ、本当に死んでますよ。

乗務員 B 始めての宇宙タクシーに、満腹中枢イカレちゃってたんですね。こうなってしまうと、もう、生きる為に食べていたのか死ぬ為に食べていたのか。

客 (泣きながら)メイプルちゃん！

乗務員 A ゲンジツは苦しいものですね。

乗務員 B 扉開きましたが、ツタヤどうします？ 寄ります？

客、嗚咽しながらタクシーを降りていく。

乗務員 A、B (手を振って) 行ってらっしゃい。

溶暗。

オワリ